

令和7年度 第1回酒田市文化財保護審議会

日時：令和7年9月5日（金）

午後1時30分～

場所：酒田市総合文化センター412号室

次 第

1 開 会

2 報告事項

令和7年度における文化財保護関係の取組みについて

3 協議事項

（1）市指定無形民俗文化財の休止状況について

（2）資料の購入について（※最後に現物資料を調査）

4 その他

5 閉会

酒田市文化財保護審議会委員

氏 名	部 門	出 欠
やま ざき ひさし 山 崎 久	歴史民俗	出席
せい の まこと 清 野 誠	古文書	出席
と がし のり ひと 富 樫 憲 人	建造物	欠席
きし もと せい じ 岸 本 誠 司	有形民俗	出席
さ とう こと 佐 藤 琴	美術工芸	出席
はる やま すすむ 春 山 進	無形民俗	出席
すず き みつ や 鈴 木 満 也	歴史資料	出席
い がらし かず ひと 五十嵐 和 一	天然記念物	出席
うえ まつ あき ひこ 植 松 暁 彦	考古資料	出席
佐 治 ゆかり	美術工芸	欠席

任期 令和6年8月1日から令和8年7月31日まで

事務局

職	氏名	備考
文化政策課長	大井 庄栄	
文化政策課文化財主幹	川島 崇史	
文化政策課課長補佐	小松 千佳	
文化政策課課長補佐 兼 文化財係長	池田 邦臣	
文化財係調整主任	渡部 裕司	欠席
文化財係主任	佐藤 志保	
文化財係主事	柿崎 智之	
文化財係主事	高橋 侑己乃	
文化財係主事	野村 悠太	

報告事項 令和7年度事業について

令和7年9月5日
企画部文化政策課

○山居倉庫施設管理事業 予算額 27,357千円

目的 国指定史跡山居倉庫の適切な維持管理を行う。

事業概要 山居倉庫1～10号、事務所棟、研究室棟、トイレ等の維持管理経費

○山居倉庫整備基本計画策定事業 予算額 46,747千円

目的 山居倉庫整備基本計画を策定するため、外部有識者による委員会を開催するとともに、計画策定に必要な基礎データを得るための調査を行う。

事業概要 委員会の開催(年2回)、耐震診断の実施

○山居倉庫整備事業 予算額 26,758千円

目的 国指定史跡山居倉庫を適切に保存・活用するための施設整備を行う。

事業概要 雨樋修繕工事、消火栓取替工事の実施。

○文化財保護事業 予算額 23,931千円

目的 市内文化財及び文化財施設を良好な状態で保護し、市民、観光客等に公開、観覧できるようにするため、文化財等を維持する。

事業概要 文化財保護審議会の開催、全国史跡整備市町村協議会活動への参加、文化財説明版、標柱整備などの広報活動、試掘調査等の埋蔵文化財調査費文化財保存活動支援事業費補助金の交付、黒森歌舞伎酒田公演委託料

○文化財管理事業 予算額 44,749千円

目的 地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財を適切に管理し、有効活用を図るとともに市民が文化財への理解を深められるよう環境整備を行う。

事業概要 松山文化伝承館の円滑な運営を図るための協議会の開催
旧鳥海小学校の維持管理
市指定文化財施設（旧白崎医院・旧阿部家）の利活用と維持管理
阿部記念館、酒田町奉行所跡、城輪柵跡、堂ノ前・八森遺跡の維持管理

○文化資料館管理運営事業 4,790千円

目的 文化資料館の運営及び施設管理を適切に行い、資料の利活用の推進上及び利便性の向上を図る。

事業概要 文化資料館の円滑な運営を図るための運営協議会の開催
年間数回の企画展示の実施、文化財・歴史等に精通した顧問委嘱経費
光丘文庫時代に整備したデジタルアーカイブの維持、
市史販売業務に係る経費

○史跡旧燈屋修復事業 91,776千円

目的 国指定史跡「旧燈屋」は、修理工事から20年が経過したことから、雨漏りや耐震性がなく地震で倒壊の恐れもあるため、修復工事（屋根の大規模修繕及び耐震補強工事）を実施する。

事業実施 学識経験者よりそれぞれの分野から意見をいただくための指導委員会の開催(年2回)
左官工事、外回り建具の復旧、エンジンポンプ取付け、庭園の基本設計
工事監理と令和8年度施工内容の設計に係る業務委託

○飛島ウミネコ繁殖地再生事業 2,217千円

目的 飛島ウミネコ繁殖地について、指定地の一部でウミネコの営巣が確認できない状況が続いていることから、指定地機能の再生を目的として事業を行う。

事業実施 学識経験者より意見をいただくための指導委員会の開催（年1回）
ウミネコモニタリング調査

協議事項(1) 市指定無形民俗文化財の休止状況について

令和7年9月5日

企画部文化政策課

市指定無形民俗文化財の休止状況について

1. 市指定無形民俗文化財の休止について

酒田市指定無形民俗文化財 12団体 (内 休止団体4件)

団体名	指定日	休止年	備考
坂本獅子踊	昭58年2月24日	令和4年	旧平田町
桜林獅子踊	昭58年2月24日	令和4年	旧平田町
鹿島獅子踊	昭58年2月24日	令和5年	旧平田町
青沢獅子踊り	昭48年5月28日	令和5年	旧八幡町

※休止については、酒田市民俗芸能保存会の休止届け出提出年

2. 指定無形民俗文化財の指定解除について

千葉県の事例

休止から10年以上

保存団体より指定解除の申し入れ

↓

状況調査

↓

審議会で解除

道具類については保存団体で保管していく。

将来的には有形民俗文化財として指定

令和7年9月5日
企画部文化政策課

白崎五右衛門一実の肖像画とされる資料の購入について

1. 経緯

本年6月に神奈川県平塚市在住の方から、白崎五右衛門一実の肖像画とされる資料を酒田市で購入しないかという趣旨の手紙が届いた。

識者が言うには「江戸期の一点であるらしい」「一流の画人の手によるもの」、他方、江戸期の豪商の人物像（絵）を求める方は「筆者不明は当然」とのこと。

なお売り上げは世田谷区役所社会福祉協議会経由で、依頼者が援助している子ども食堂へ食糧援助に使われる。ただし、「商人ではないので高く売るとかの考えはありません」とのこと。

当資料を酒田市として購入すべきかご意見をお伺いしたい。

2. 白崎五右衛門一実について

生没年は寛政9（1797）年～嘉永3（1850）年。酒田の自治に力を尽くした白崎五右衛門一恭の長子で、文政元（1818）年に父死去のため、総火消世話役を引き継いだ。松山城大手門の屋根瓦の献上、また松の植樹を行う。天保4（1833）年には町医佐藤蒿庵と謀って医会所十全堂を設け医術の研究と貧民の施療にあたった。

（参考文献：庄内人名辞典刊行会編『新編庄内人名辞典』昭和61年）

3. 資料について

寸法	縦：173.0cm 横：54.8cm 本紙縦：85.7cm 本紙横：42.3cm
年代	不明
作者	不明
材質	絹本著色

飛島サンゴ類群棲地

(とびしまさんごるいぐんせいち)



名称（事業名）	飛島サンゴ類群棲地
ふりがな	とびしまさんごるいぐんせいち
指定区分	県指定文化財 天然記念物
指定年月日	昭和31（1956）年 11月 24日
所在地（市町村）	酒田市飛島字勝浦乙1-2の地先北側（館岩内側）
所有者（実施団体名）	酒田市
概要 （活動状況等）	飛島勝浦港の南東部に突き出る館岩の港側の海は、暖地系の海産生物の豊かなところである。ここには日本特産で、相模湾を除いて産地が日本海側に限られるムツサンゴ、同じ主要産地が日本の周辺のみで、外にはマレー群島だけで知られるオノミチキサンゴなどの貴重なサンゴ類が生息している。ムツサンゴは、館岩の港側の壁、水深1～3 mのところに、長さ30 mにわたる大群集をつくっている。部分的には幅5、6 mの岸壁全面がおおいつくされているところもある。飛島が北限の分布地であるオノミチキサンゴは、水深2．5 m地点に数個の群体が見られる。
問い合わせ先	公開の有無：有 ホームページ： 飛島サンゴ類群棲地
地図	+ —



※地図の利用規約等については[こちら](#)

2025年 8月26日

山形県指定天然記念物「飛島サンゴ類群棲地」調査報告

酒田ユネスコ協会会長 後藤憲二

1 飛島に生息しているサンゴ類についての調査履歴

1949年（昭和24年） 山形大学名誉教授 阿部襄先生が実施。

1980年（昭和55年） 酒田東高等学校生物部が顧問の五十嵐敬司先生の指導の下に実施。

1992年（平成 4年） 酒田東高校 五十嵐敬司先生が飛島旅館の本間憲生さんの協力を
得て実施。

1997年（平成 9年） 山形大学教授 伊藤健雄氏 山形県立博物館 奥山武夫氏
酒田東高等学校の五十嵐敬司先生 合同で実施。

1997年（平成 9年）～2001年（平成13年） 飛島生物調査会が実施。

1997年（平成 9年） 飛島環境調査業務委託を受け、5月6月7月8月11月の5回
館岩のサンゴ類の調査を実施。

2002年（平成14年）からは誰も調査をしておらず、気にかけていた五十嵐敬司先生からサンゴの様子を見に行ってきた欲しいと言われていた。私は53年前に飛島中学校に勤務していたこともあり当時の教え子にそのことをお話し、また知り合いの加茂水産高校のダイビング部顧問の田代拓先生・同校のユネスコスクール担当の佐藤久哉先生の協力を得て今回の調査を行うことができた。

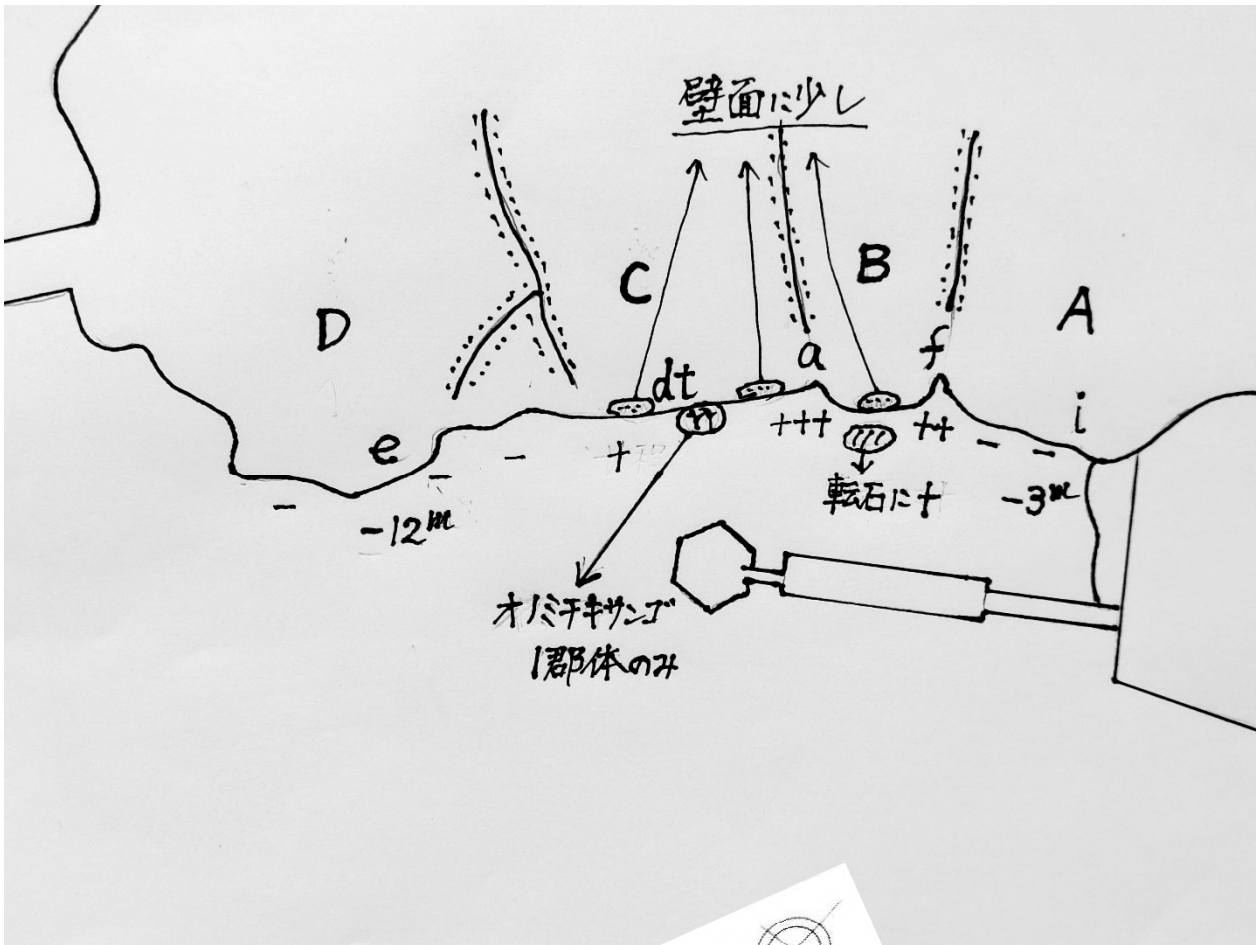
以下はその概要である

2 酒田市飛島サンゴ類群棲地調査撮影 実施要項

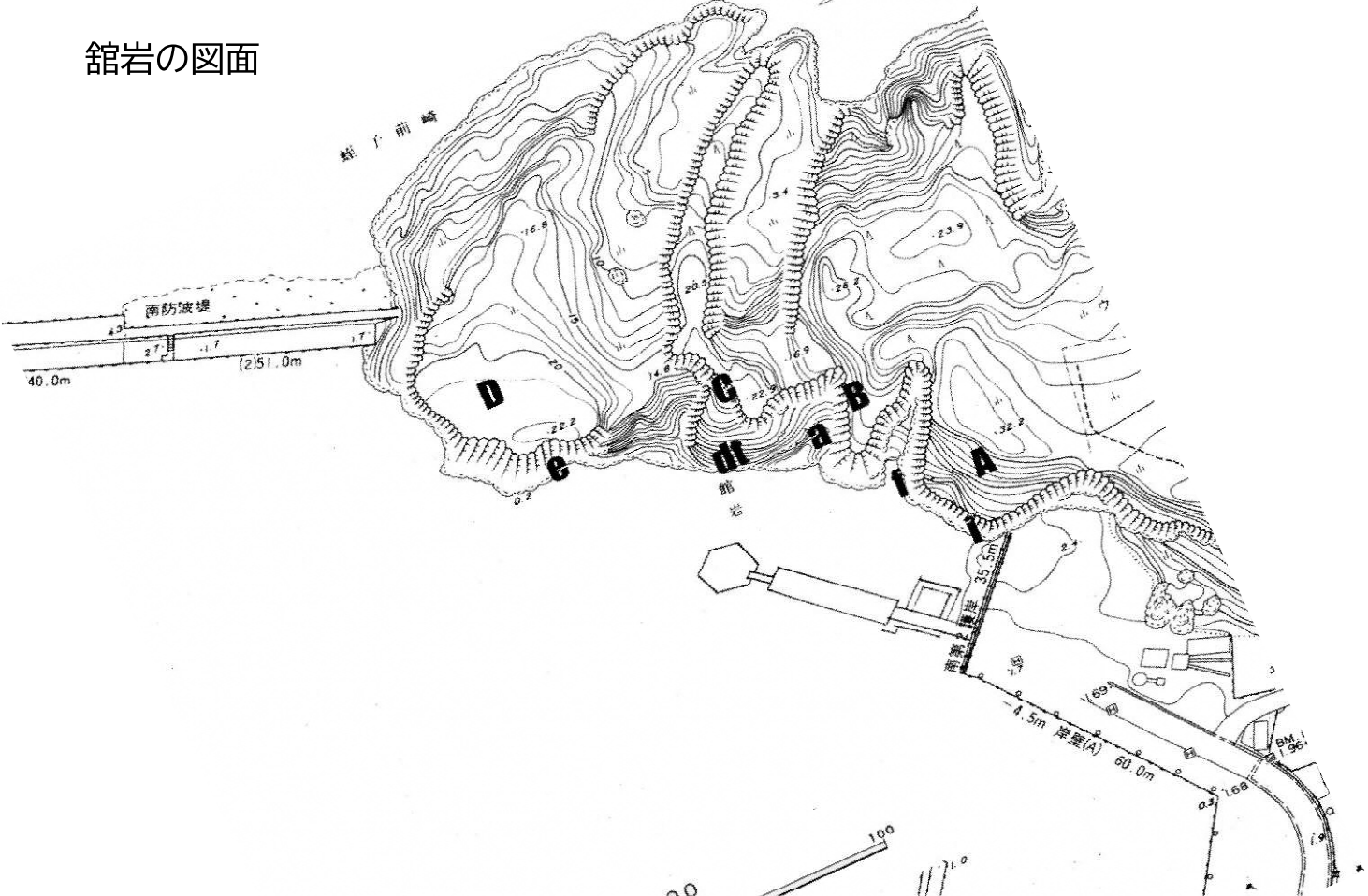
目 的	山形県に指定されている天然記念物の「飛島サンゴ類群生地」の調査と写真撮影。 温暖化と海洋汚染で減少や絶滅が危惧されているので調査し、平成13年以降どう変化しているか調べる。		
期 日	2025年7月28・29日（月・火）		
日 程	7月28日（月曜日） 8時酒田港出発、 11時飛島到着、 12時昼食・撮影準備、 14時調査と撮影 16時撮影終了、 17時夕食準備と夕食、 19時調査のまとめ、 22時就寝 7月29日（火曜日） 6時起床、 7時朝食、 8時撮影準備、 9時撮影、 10時撮影終了・後始末 11時昼食、 11時30分飛島出発、 15時酒田到着・解散		
参加者	後藤憲二（酒田ユネスコ協会） 090-※※※※-※※※※ 佐藤久哉（鶴岡市ヨット連盟会長・加茂水産高校講師） 090-※※※※-※※※※ 田代 拓（加茂水産高校教員・ダイビング部顧問） 080-※※※※-※※※※ 齋藤 蓮（加茂水産高校水産科2年・ダイビング部員）		
協力者	飛島漁業者代表 佐藤秀樹 0234-31-※※※※ 飛島漁師・水産高校 OB 鈴木英明 090-※※※※-※※※※		
経 費	飛島で使用する磯舟をチャーター代 1万円 磯舟の運転をお願いするドライバー報酬 1万円 4人の食事代 1日目の昼食・夕食、2日目の朝食・昼食 4食×4人×1500円＝2万4千円 ヨットの燃料代 軽油40リットルで7000円 ボンベ・潜水道具・生徒・先生の加茂からの輸送 田代先生負担 合 計 5万1千円 後藤負担		

3 調査結果および考察

2025年7月28・29日の観察図



館岩の図面



(1) ムツサングについて、1997 年と 2025 年の群体数の比較

館岩の各部分	場 所	1997 年の群体数	2025 年の群体数	増 減
A 岩塊（飛島港側）	f から i	++	—	大きく減少
A 岩塊（ B 側 ）	同上	—	—	同じ
A・B 岩塊の境界部	f	+++	++	減 少
B 岩塊	a から f	+	+	同じ
B・C 岩塊の境界部	a	+++	+++	同じ
C 岩塊	dt	++	+	減 少
D 岩塊	e	+	—	減 少

+++：きわめて多い ++：多い +：生息が見られる —：生息が見られない

1997 年は素潜り・箱メガネで調査し、2025 年はボンベ潜水で調査した。

- ① 観察した 7 地点のうち減少した地点が 4 か所、ほぼ同じ地点は 3 か所であった。

原因として海水温の上昇・釣り客による大量の撒き餌による水質悪化・堤防の延長が考えられる。

- ② 生息地点は図の a と f に限られている。水深 1～1.5m 付近が最も多い。

- ③ a より左の方にはごくまれにしか生息していない。

- ④ f 地点は、水面に海藻や陸から落下した小枝や葉が厚さ 5 c m 位になって浮かんでおり、水中に差し込む日光を遮っている。共生している褐虫藻の光合成に不利になり減少の要因になっているのではないか。

(2) オノミチキサングについて

- ① 今までとほぼ同じか若干増えている感じである。生息地点は図の dt に限られている。

- ② 水深は 3～4 m で幅 1 m ぐらいのところに集中している。最大 15 c m 前後で枝状である。

- ③ 海底の岩にも 3 個ほどあるのを確認できた。

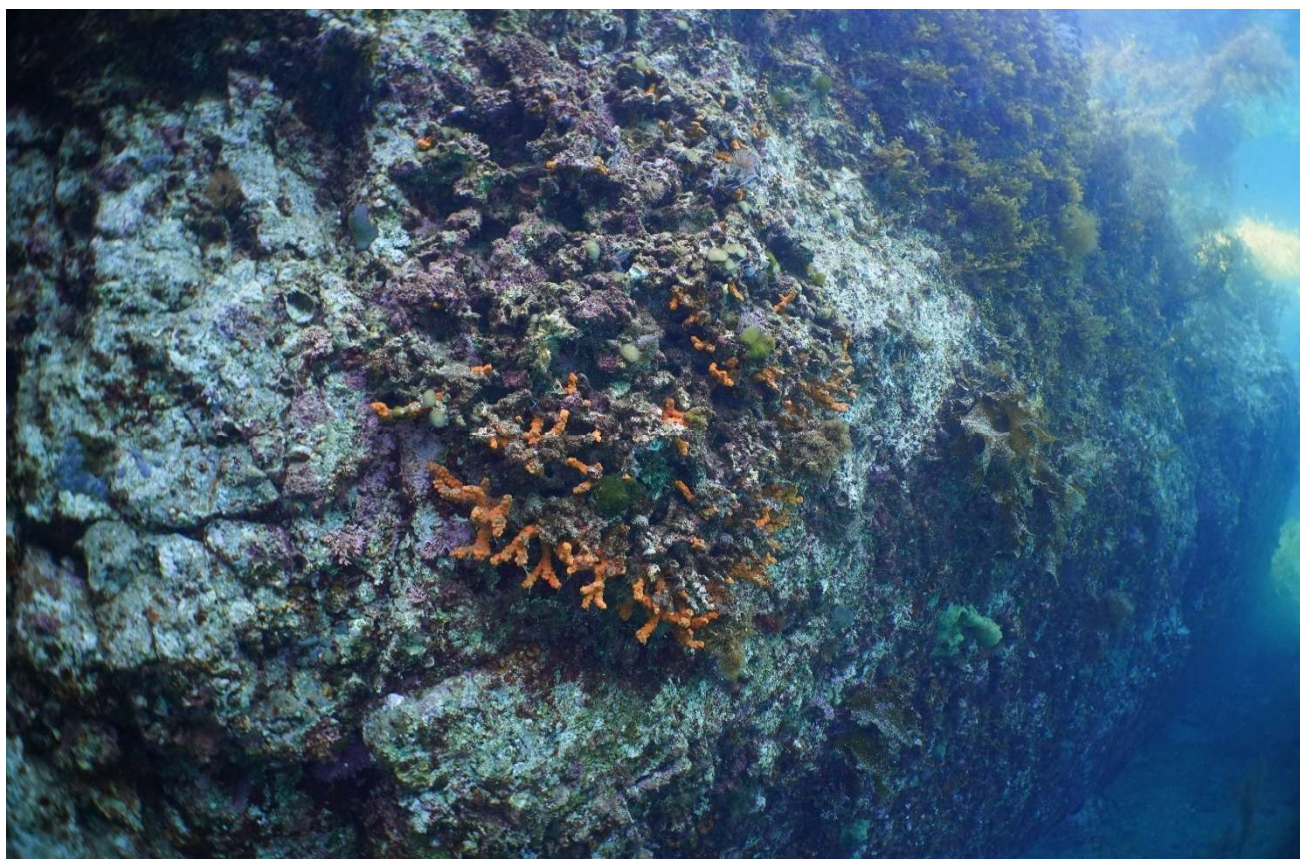
4 今後の調査について

- ・ 今後は定期的に潜水調査を行い、定点観測をしていく必要がある。
- ・ 寺島と御積島にも生息しているので、そちらも調査する必要がある。
- ・ 経年変化を明確にするため調査方法を工夫する必要がある。

範囲を決めて、毎回同じ場所と範囲の写真を撮り、群体数と個体数を調べる。

◎ボンベによる潜水調査には経費がかかる。研究助成金について捻出先を検討していきたい。

以下は田代拓先生が撮影した写真である。

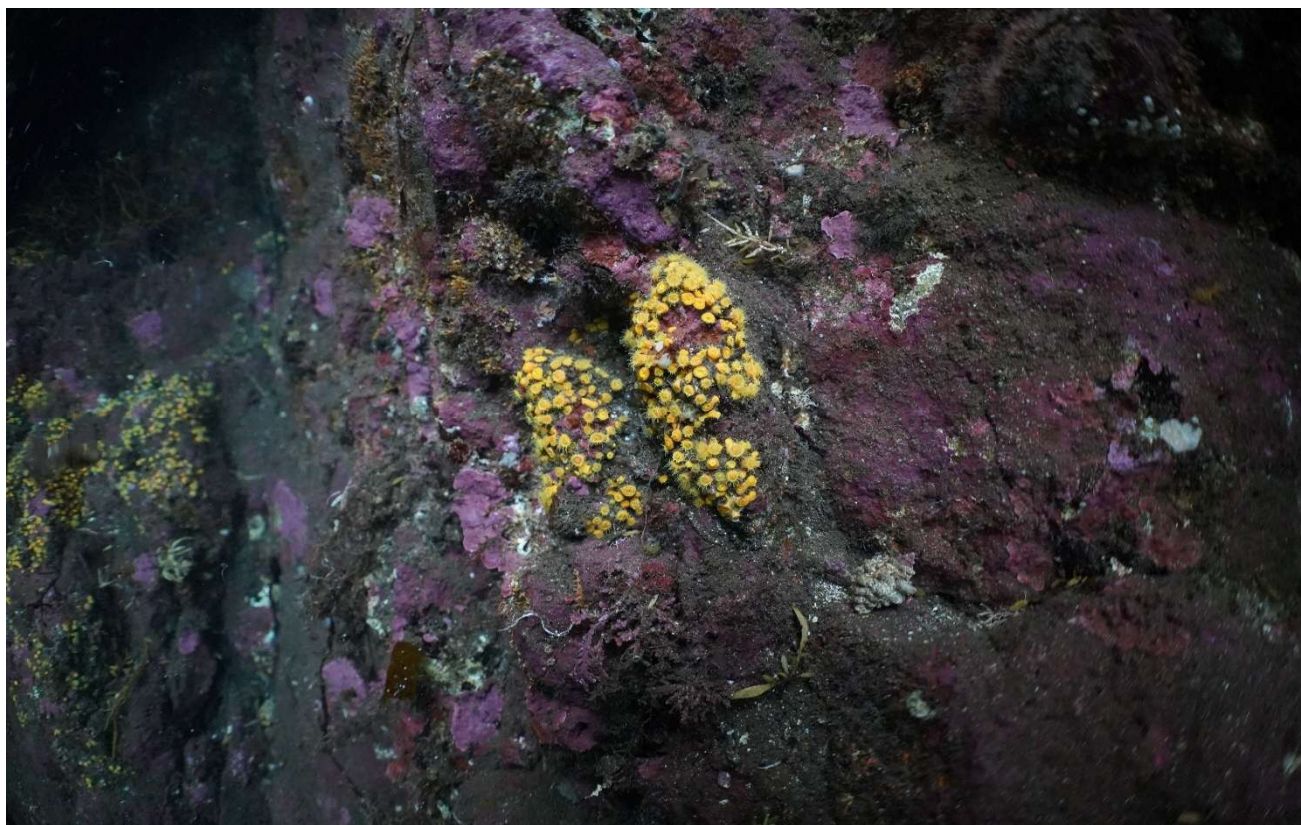


オノミチキサンゴの群落 色鮮やかなエダサンゴで大きいものは15cmほどである。

撮影地点 d t 2025年7月29日 田代拓先生撮影



ムツサンゴの大群落 黄色のポツポツが広範囲に広がっている。
撮影地点 f 2025年7月29日 田代拓先生撮影



ムツサンゴの小群落 1個の直径は約5mmである。
撮影地点 f 2025年7月29日 田代拓先生撮影



ムツサングとイソバナ 撮影地点 a 2025年7月29日 田代拓先生撮影
ぼつぼつと黄色く見えるのがムツサングで、扇のように広がっているのがイソバナである。

ここに載せた写真は全体の一部であり、他に多くの動画を記録した。動画やその他の写真も見たい方は後藤まで連絡下さい。